

# 2019年度 決算説明資料

保土谷化学工業株式会社

セグメント	事業	主要製品
機能性色素	有機EL材料	輸送材料、発光材料
	イメージング材料	トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、インクジェットプリンター用染料
	色素材料	アルミ着色用染料、文具用染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
機能性樹脂	樹脂材料	ウレタン原料、接着剤、剥離剤
	建築材料	土木・建築用の防水・止水材料、防水・止水工事
	特殊化学品	医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
基礎化学品	工業薬品	過酸化水素および誘導品、その他工業用基礎原料
アグロサイエンス	農薬	除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
物流関連	物流関連	倉庫業、貨物運送取扱業

通期累計

単位: 百万円  
表示: 百万円未満切捨

連 結	2018年度	2019年度	前期比
売 上 高	37,548	37,771	+ 223
営 業 利 益	3,028	2,902	▲ 125
経 常 利 益	3,104	3,058	▲ 45
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,883	1,858	▲ 25

為替レート

\$=111.07円  
W=0.0998円

\$=108.95円  
W=0.0920円

\$=ドル  
W=韓国ウォン

- **売上高**は、機能性樹脂、アグロサイエンス、物流関連が減少したものの、機能性色素、基礎化学品が増加し、**223百万円の増収**
- **営業利益**は、売上高が増加したものの、売上原価の増加等により、**125百万円の減益**
- **経常利益**は、営業利益の減少に加え、為替差益が差損に転じたものの、環境関連整備費の減少等により、**45百万円の減益**に留まる
- **親会社株主に帰属する当期純利益**は、**経常利益の減少**等により、**25百万円の減益**

(単位:億円)

科目	2019年 3月末	2020年 3月末	増減
(流動資産)	273	255	▲17
現預金	75	68	▲6
売上債権	124	112	▲11
棚卸資産	67	70	+2
その他	5	3	▲1
(固定資産)	297	293	▲4
有形・無形 固定資産	209	222	+13
投資有価証券	73	59	▲13
その他	15	11	▲4
合計	571	549	▲22

科目	2019年 3月末	2020年 3月末	増減
(負債)	202	178	▲24
仕入債務	55	41	▲13
有利子負債	86	71	▲14
その他	61	65	+4
(純資産)	368	370	+1
資本金	111	111	-
資本剰余金	87	87	▲0
利益剰余金	99	113	+14
その他	70	57	▲12
合計	571	549	▲22

## 財務指標

・自己資本比率	59.5%	⇒	61.8%
・D/Eレシオ	0.25倍	⇒	0.21倍

有利子負債	86億円	⇒	71億円
現預金	75億円	⇒	68億円

通期累計

単位：百万円  
表示：百万円未満切捨

セグメント	2018年度	2019年度	前期比
機 能 性 色 素	10,912	11,855	+ 943
機 能 性 樹 脂	12,327	11,717	▲ 609
基 礎 化 学 品	6,799	7,156	+ 356
アグロサイエンス	5,288	4,951	▲ 337
物 流 関 連	2,035	1,932	▲ 102
そ の 他	185	158	▲ 26
合 計	37,548	37,771	+ 223

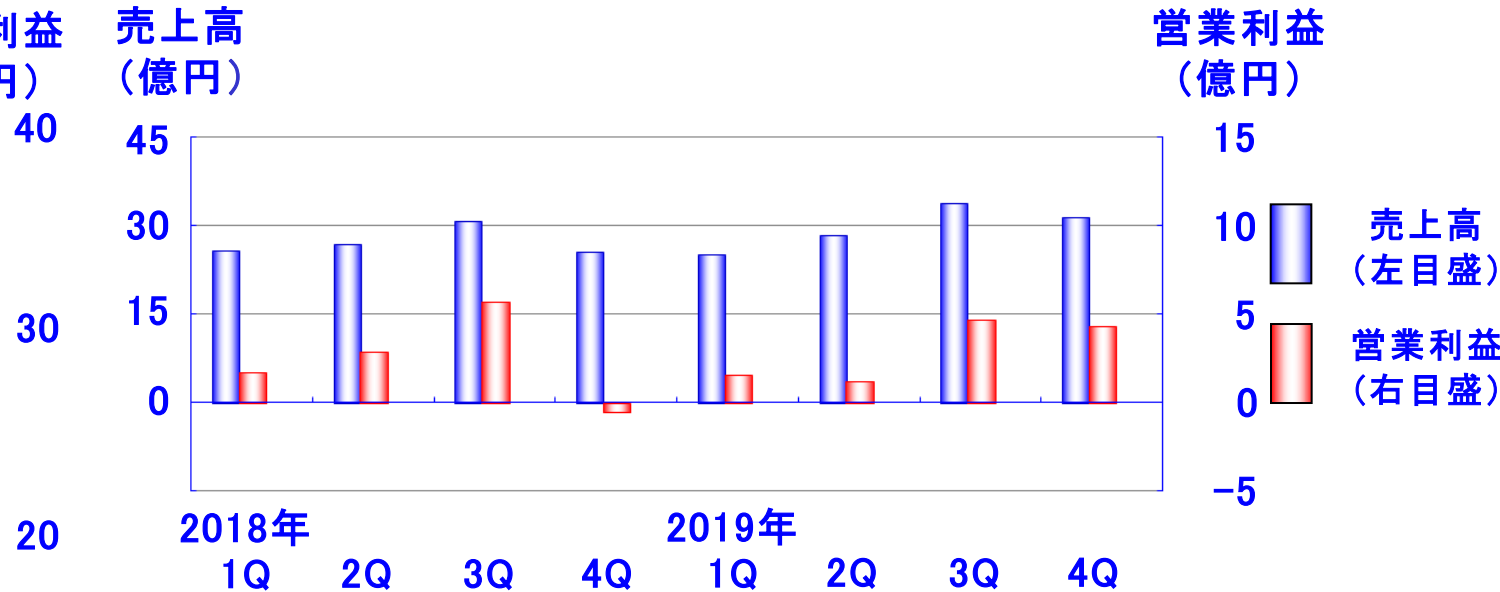
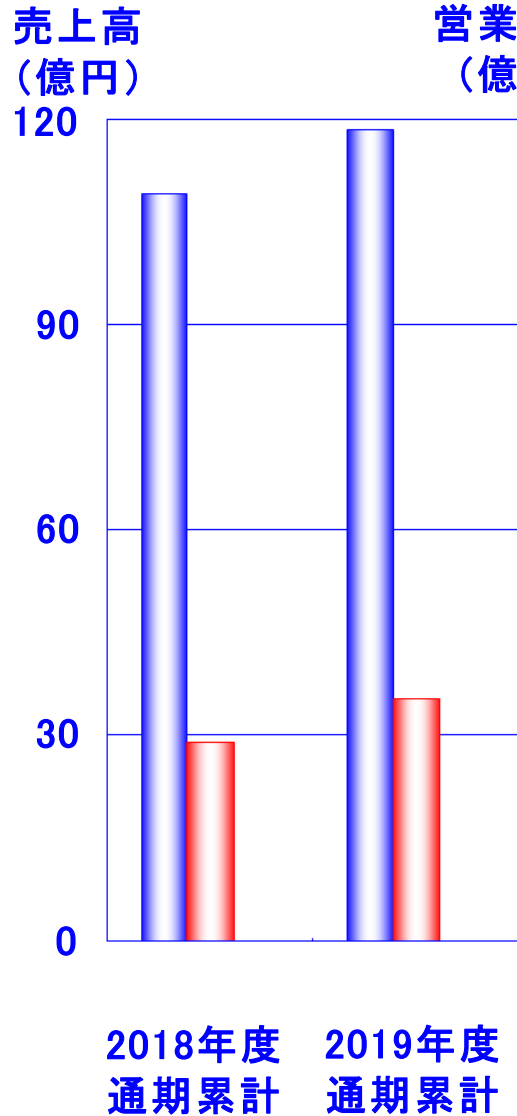
通期累計

単位：百万円

表示：百万円未満切捨

セグメント	2018年度	2019年度	前期比
機能性色素	966	1,182	+ 215
機能性樹脂	587	531	▲ 56
基礎化学品	545	589	+ 44
アグロサイエンス	409	205	▲ 204
物流関連	487	397	▲ 89
その他	33	▲ 3	▲ 36
合計	3,028	2,902	▲ 125





### イメージング材料

・モノクロプリンター向け材料の需要低迷が続いているものの、新規顧客の獲得等により、前期並み



### 有機EL材料

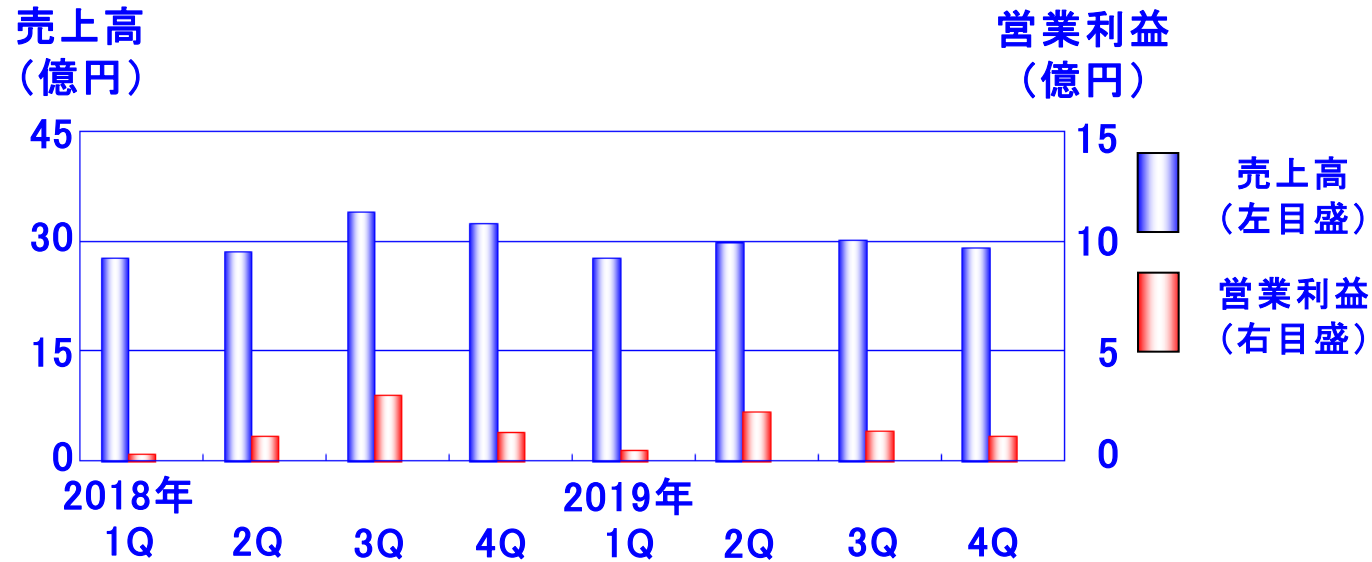
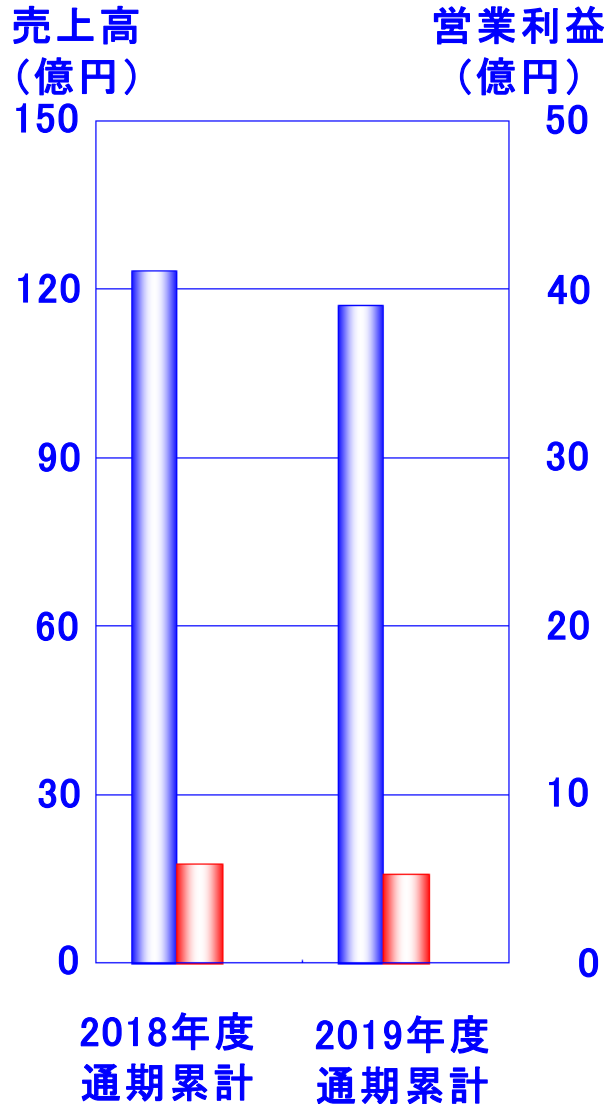
・スマートフォン向けディスプレイ分野において、液晶から有機ELへの切替が進んでおり、需要が増加し、増収



### 色素材料

・アルミ着色用染料で用途展開の遅れや、スマートフォン向け販売の伸び悩み等で減少したものの、繊維向け染料の需要増加があり、前期並み





## 樹脂材料

・主にウレタン原料の需要が、米中貿易摩擦の影響を受けて減少し、減収



## 建築材料

・防水・止水工事は大型案件の獲得により増加したものの、材料販売が振るわず、前期並み



## 特殊化学品

・医薬向け中間体が大口案件の獲得等により、増収

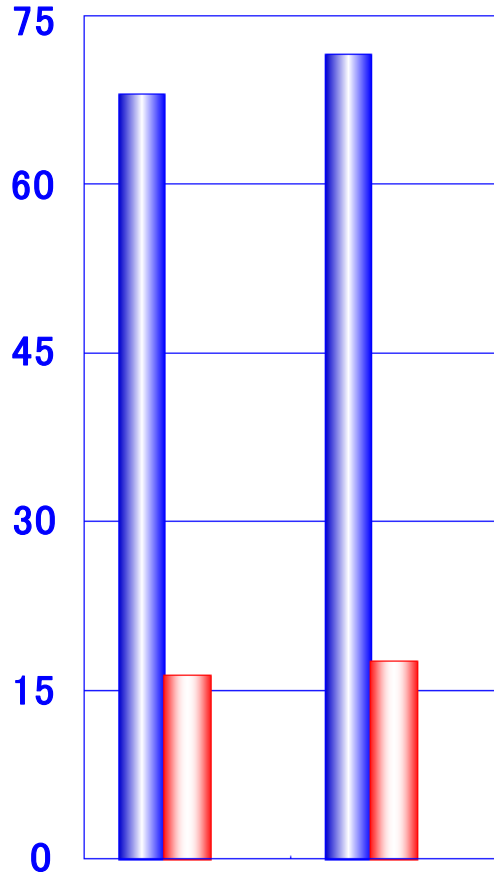


売上高  
(億円)

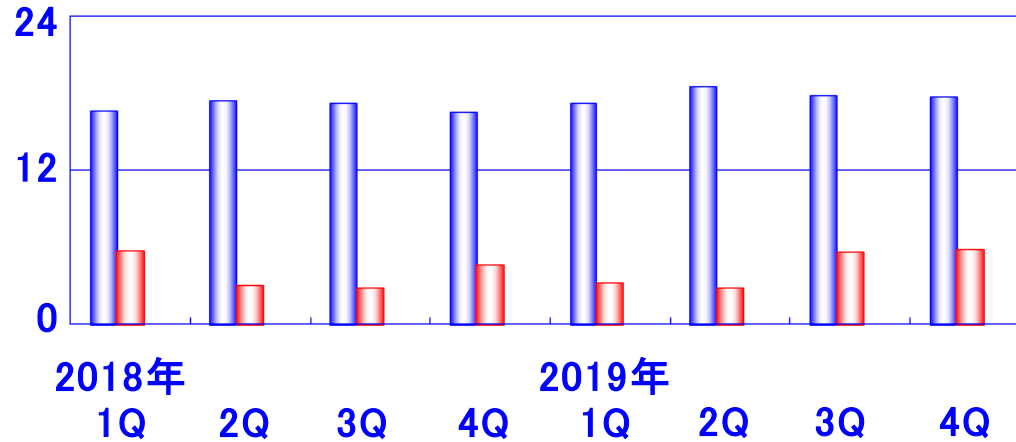
営業利益  
(億円)

売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)



2018年度 通期累計    2019年度 通期累計



売上高 (左目盛)  
営業利益 (右目盛)

過酸化水素  
及び  
誘導品(※)

・ペーパーレス化の影響もあり、紙パルプ関連の需要減少が続いているものの、工業薬品向けの需要が半導体市場等の回復を受けて増加し、前期並み。また、過酸化水素誘導品は、衣料用漂白剤や家庭用洗剤向けの需要の増加と、新規顧客の獲得等により、増収

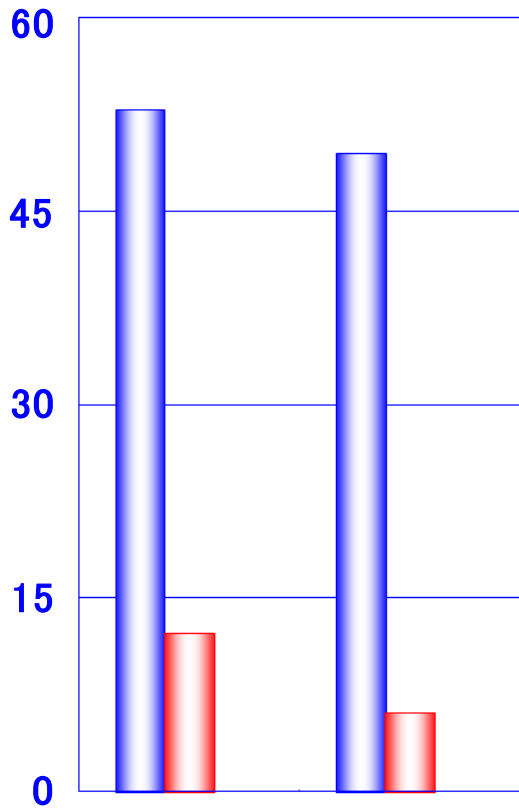
※過炭酸ナトリウム、過酢酸等

売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)

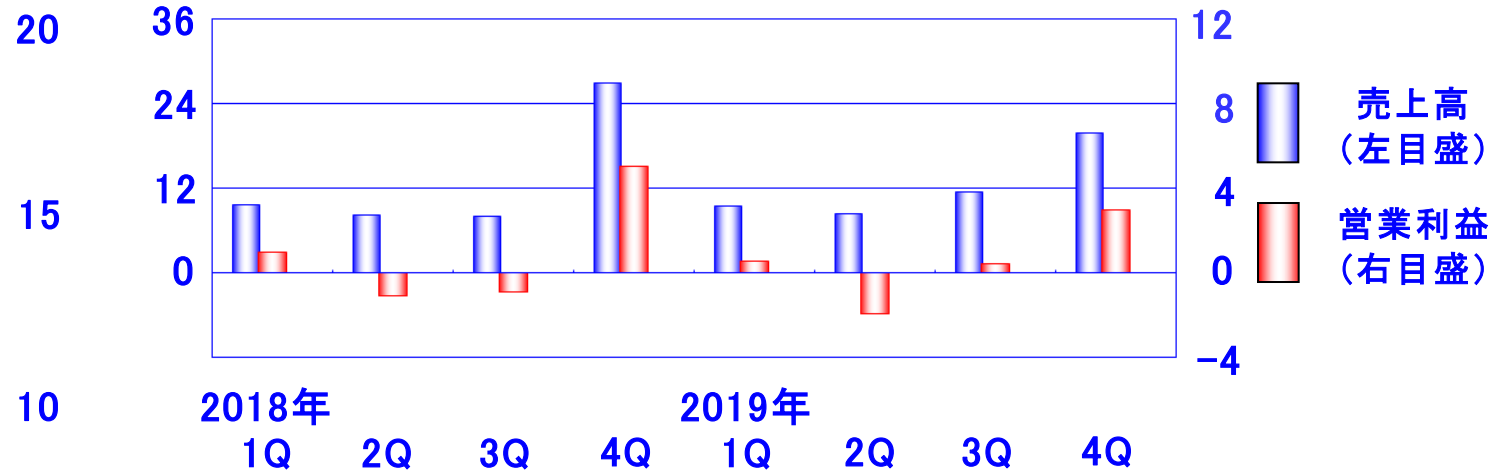
売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)



2018年度  
通期累計

2019年度  
通期累計



アグロサイエンス

・ゴルフ場向け除草剤等は、  
大手顧客の獲得により、増収となったものの、  
家庭園芸向け除草剤等は、  
競争激化に伴うシェアの低下により、減収

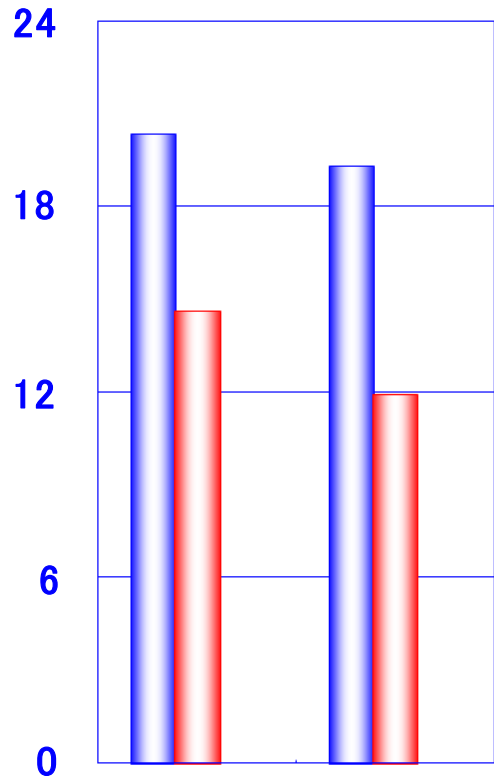


売上高  
(億円)

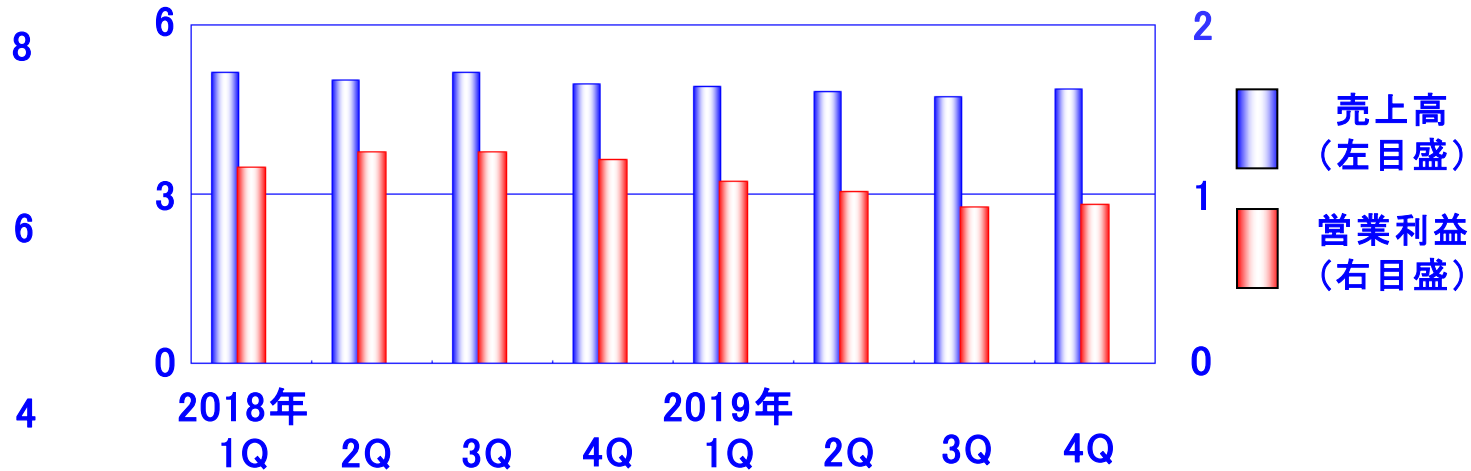
営業利益  
(億円)

売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)



2018年度 2019年度  
通期累計 通期累計



物流関連

・危険物倉庫の需要は堅調に推移しているものの、  
足下では、米中貿易摩擦の影響を受け、  
輸出の取扱量や、倉庫保管量の減少により、減収

